



つながりあう安心、笑顔が輝く暮らし

コープみえ サステナビリティ レポート

2022

コープみえの事業、社会、環境活動の報告書です。
コープみえ SDGs 宣言に沿って 2021 年度の活動をまとめました。

もくじ

- ◆特集1 コロナ禍での事業や活動を通じたお役立ち…………… P5～6
- ◆特集2 コロナ禍でみてきたコープみえの役割…………… P7～8
- ◆持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方の見直し活動…………… P9
- ◆地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーの利用・普及活動…………… P10～11
- ◆世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動の推進…………… P12
- ◆核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動の推進…………… P12
- ◆誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりへの参加…………… P13～15
- ◆健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動の推進…………… P16
- ◆ジェンダー平等（男女平等）と多様な人々が共生できる社会づくりの推進…………… P17
- ◆コープみえの内部統制システム、サステナビリティレポート第3者評価 …… P18



コープみえキャラクター
みえっぴい



2022年 コープみえ サステナビリティレポート

発行月：2022年6月
お問い合わせ先
〒514-0009
三重県津市羽所町379番地
生活協同組合コープみえ 機関運営部
TEL 059-271-8507 FAX 059-222-5025
ホームページ <https://www.coop-mie.jp>

コープみえ 検索



資源や環境に配慮して、エコインキと再生紙を使用しています。
このサステナビリティレポートは、カーボンオフセットされています。
☆サステナビリティレポート1部のCO₂排出量は約266gです。

コープみえの理念

つながりあう安心、 笑顔が輝く暮らし

～ 平和な社会を未来へ引き継いでいきます ～

サステナビリティレポートの 発行にあたって

2022年6月
生活協同組合コープみえ 理事長 すずき としひこ 鈴木 稔彦

平素より格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

関係者の皆様にこのサステナビリティレポートを通して、コープみえの1年間の社会的な活動についてご報告致します。

2020年からはじまった新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、昨年も私たちの暮らしに様々な変化をもたらしました。コロナ禍に向き合いながら組合員はじめ皆様とともに取り組んできたことをまとめています。

今、世界は貧困や飢餓、差別、戦争、温暖化による気象災害など、大きな危機に直面しています。その危機感から世界の叡智として定められた「SDGs(持続可能な開発目標)」がめざす方向は、私たちの取り組みと同じです。誰一人取り残さない持続可能な社会につながる多様な取り組みを、組合員をはじめ、地域の皆様とともにすすめてきています。

私たち生活協同組合(生協)は、消費者が暮らしの全般にわたって協同の輪をひろげ、暮らしの願いを実現し、暮らしをよりよくしていくことを目的とした助け合いの組織です。コープみえは「つながりあう安心、笑顔が輝く暮らし」の理念のもと、平和な社会を未来へ引き継いでいくため、暮らしの願いに応える取り組みを一層強めていく所存です。引き続き皆様のご指導ご援助をどうぞよろしくお願い致します。



コープみえの事業

宅配事業

毎週1回、決まった曜日に指定された場所に商品をお届けしています。商品の受取方法は、くらしに合わせて、グループ購入、コープ宅配、ステーション購入から選んでいただけます。東海3生協でつくる東海コープ事業連合を通じて商品の仕入れを行っています。



店舗事業

まつさか店(松阪市)とみやがわ店(伊勢市)の2店舗があります。組合員にとって必要なお店、私のお店と思ってもらえる店づくりをすすめています。



福祉事業

「安心」「笑顔」「健やか」「想い」「共有」を大切に、利用者一人ひとりに合った自立をめざしたサービス提供に心がけ、福祉サービスをすすめています。



くらしの事業

くらしに役立ち、より豊かにするために、夕食宅配、葬祭、宅配灯油、共済、すまいの事業、その他の斡旋サービス事業などをすすめています。



■組織の概況(2022年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープみえ
設立	2003年3月21日
本部所在地	三重県津市羽所町379番地 TEL 059-271-8500(代表) https://www.coop-mie.jp
事業エリア	三重県一円
組合員数	204,704人
出資金(1口千円)	46億6,539万円
加入率	27.4%
役員	理事22人 監事5人
職員数(出向者含む)	ゼネラル(正規職員)245人 ジョブ(パート職員)264人
子会社 スマイルサービスみえ	事業高 2億2,366万円(1月末現在)

■事業所・事業内容

宅配事業9センター	桑名、四日市、鈴鹿、津宅配、津南、松阪、紀北、伊勢、伊賀
ステーション	全県36箇所
店舗事業2店舗	まつさか店(松阪市) みやがわ店(伊勢市)
福祉事業1事業所	福祉サービスセンター松阪(松阪市) 事業内容: 通所介護事業、 居宅介護支援事業、 訪問介護事業
その他事業	共済事業(受託)、夕食宅配事業、 斡旋サービス事業

■経営状況 2021年3月21日～2022年3月20日

総事業高	240億5,609万円
供給高合計	233億8,701万円
利用事業収入	2,778万円
福祉事業収入	3,814万円
その他事業収入	6億314万円
事業総剰余金	55億1,792万円
事業経費	47億623万円
事業剰余金	8億1,168万円
経常剰余金	9億1,444万円

■関連組織紹介

生活協同組合連合会 東海コープ事業連合	東海3生協(コープぎふ、コープあいち、 コープみえ)が出資し、会員単協の商品、 物流、情報システム等を合同し、事業を 推進しています。
株式会社 コープサービス東海	東海3生協、東海コープ事業連合が出資し、 損害保険代理事業、生命保険募集に関わる 業務を行っています。
株式会社 スマイルサービスみえ	コープみえの子会社として、宅配や夕食 宅配の配送業務、施設・設備の保守・管理・ 清掃業務、くらしの便利屋等を行っています。

SDGs の概要と行動宣言 (7つの取り組み)

SDGs (持続可能な開発目標) を組織と地域の中にひろげあい推進します。

私たちコープみえは、“つながりあう安心、笑顔が輝く 暮らし”の基本理念のもと、組合員との絆を大切に、地域や行政・諸団体、メーカー・生産者と連携し、これまでもSDGsに関わる諸課題に取り組んできました。これまでの運動や活動の価値をみんなで確かめ合い、引き続き協同の力で、持続可能な開発目標 (SDGs) の実現に貢献していきます。

- ◆持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます
- ◆地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します
- ◆世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します
- ◆核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します
- ◆誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します
- ◆健康づくりの取り組みをひろげ、福祉事業・助け合い活動をすすめます
- ◆ジェンダー平等 (男女平等) と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します



SDGsとは

SDGs (エス・ディ・ジーズ) とは、2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ (行動計画)」に記載された、国際的な取り組み目標である「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) の略です。持続可能な世界を創出するために、2030年までに全ての国や地域で取り組むべき17の目標とそれを達成するための169の具体的な取り組み内容、取り組みの成果を計るための232の指標で構成されています。

コープみえは、2021年度基本方針の柱の1つとして「SDGsの達成に向けて」を位置づけ、コープみえSDGs行動宣言をもとに活動をすすめてきました。

職員からのSDGsへの想い 〈職員のSDGsの理解やひろがり〉

職員のSDGsへの理解が少しずつすすんできました。日頃感じているSDGsへの想いを聞いてみました。



四日市センター 谷井一文

東日本大震災の発災時、東北地方へ復興支援に向かいました。未だ復興の最中ですが、今後も住み続けられるように、手厚い取り組みが必要だと感じます。

環境としては、海岸に漂着するプラスチックゴミに驚かされました。一人ひとりが川や海にゴミを捨てないことを意識しましょう。



津南センター 川畑浩久

貧困、戦争の原因は教育を受けられないことです。字を学べば読書が可能になり、知識が身に付きます。最低限の教育が提供できれば、豊かな社会が生まれると思います。



まつさか店 松宮尚子

食品ロスを減らし、生産者を応援することで「つくる責任、つかう責任」に貢献できると思います。「形が汚いから」と廃棄するのは、あまりにももったいないです。有機栽培の良さを伝えながらロスを減らすことは決して簡単ではありませんが、この目標をクリアすることで循環型社会が実現できるのではないのでしょうか。



松阪センター 田中友也

SDGsを知ってから商品を買う際に、環境に配慮した商品なのか確認するようになりました。コーヒーが好きで毎日飲んでいますが、認証マークがあるものを選んでいきます。



みやがわ店 三田裕美

買い物の際はエシカル商品か、マークの表示を確認しています。つくる責任はもちろん、使う消費者にも責任があります。



紀北センター 奥戸雄貴

一人暮らしを始めてからフードロスをなくすために、食べきれない量を調理しています。余りがちなご飯は冷凍して、好きな時に食べられるようにストックしています。



くらしの相談窓口 田中 睦

生協は組合員をはじめ、くらしに関わるすべての人々とさえあう組織だと思います。住みやすい街づくりはどの事業にも共通するテーマです。その中で、何でも気軽にご相談いただける存在として、お役に立てるようにこれからも努力していきます。



東海コープ出向 後久忠利

リサイクルできるものは、できる限り回収ボックスへ出すようにしています。スーパーや生協で商品を利用する際は、なるべく使い捨ての包材でないものを選んでいきます。



新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けた生産者支援

コープみえの組合員が出荷できない真鯛でカルパッチョを商品開発！

水質が良い三重県の熊野灘は、全国でも有数の養殖真鯛の産地になっています。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、飲食業などからの需要が大きく減少し、養殖真鯛は行き場を失い、厳しい状況が続いていました。

そんな養殖真鯛の生産者を応援しようと、松阪センターの組合員活動「商品活動をすすめる会」が三重県漁業協同組合連合会と連携し、商品開発に取り組むことになりました。

普段のくらしで気軽に食べてもらえる商品を模索！

コープみえでは毎年、三重県産の食材に目を向けて利用者のニーズに合った商品をつくろうと、組合員が生産者やメーカーと協力して開発に取り組んできています。今回は養殖真鯛を使った商品開発に決まりました。「商品活動をすすめる会」では年末年始だけでなく、ふだんの食卓でも気軽に養殖魚を食べていただけるような商品にしようと、様々な意見が出され検討が始まりました。鯛めしや茶漬けといった案も出ましたが、若い世代にも親しみやすく、おもてなしの一品にもできるカルパッチョに決まりました。

半年間の試行錯誤を繰り返し完成した商品の名称は、「三重県産真鯛のカルパッチョ」。自宅で外食気分を味わえるように地中海風のソースが付いた一品に仕上げました。



賛同した組合員から多くの注文が！

7月に企画された商品案内には、予想を上回る8,440セットの注文があり、生産者を応援する取り組みに多くの方が賛同されました。この取り組みをきっかけに、利用を再開する組合員もいました。



養殖真鯛の生産者より

「真鯛はどんどん成長していくのに、コロナ感染症の影響で出荷できずに困ってました。今回の企画は本当に嬉しいです。これを機に地元の商品をおいしく食べて欲しいです」(西村宗伯さん)



(商品活動をすすめる会の声)

「コロナ禍の中で生産者の応援ができて良かったです。簡単におもてなしができる一品です。食卓のバラエティーの一つに使って欲しいです。」

コロナ禍の中での感染者支援や生活困窮者自立支援活動

生活困窮者支援

伊賀市社会福祉法人連絡会主催のフードパントリー

新型コロナウイルス感染拡大によって生活が困窮している方へ、「少しでもお役に立ちたい」という思いから12月15日～17日の3日間、伊賀市社会福祉法人連絡会が主催するフードパントリーに参加し、食料等支援物資の仕分けや受け渡しを行いました。コープみえからは賞味期限が短くなった防災支援物資や組合員に協力をいただいた余剰品等の寄付を行いました。



さくらパントリー

「さくらパントリー」主催(とば地域・子ども食堂ネットワーク)が、鳥羽市民の森芝生公園にて4月3日に開催され、150世帯分の食料などが配布されました。コープみえ伊勢センターからも食料40点合わせて約70kgを提供しました。



コロナ感染者支援

三重県からの要請を受けた、コロナ自宅療養者への食事等提供活動を行いました。行政から要請のあった感染者の自宅に一週間分の食料(水、ごはん、レトルト食品、缶詰、ビスケット等)をお届けし喜ばれました。



「子どもの貧困」学習会

11月にNPO法人太陽の家理事長 対馬あさみ氏を講師にお招きし、オンラインと会場参加で開催しました。子どもを取り巻く環境は、現在のコロナ禍において新たなストレスや適応の難しさを生み出しており、地域の課題と私たちに何ができるのかを学びました。



(参加者の声)

子どもの貧困や居場所の問題は、本当にいろいろな社会問題とつながっていると感じています。「してあげる」ではなく、お互いさまの気持ちで他人とつながれる社会にしていきたいと改めて思いました。

「生活困窮者自立支援事業の連携に関する協定」8市町が新たに締結！

2021年度は新たに8市町の社会福祉協議会と締結しました。この協定は、社会福祉協議会が実施する「生活困窮者自立支援事業」の推進を図るため、コープみえで保有する余剰商品や賞味期限が短くなった防災支援物資を提供することにより、食品等の有効活用を実現するとともに、地域福祉に寄与することを目的としています。



松阪市、多気町、明和町、大台町、玉城町の1市4町の社会福祉協議会との締結の様子

「生活困窮者自立支援事業の連携に関する協定」一覧

- ・津市社会福祉協議会
- ・鈴鹿市社会福祉協議会
- ・伊賀市社会福祉協議会
- ・尾鷲市社会福祉協議会
- ・松阪市社会福祉協議会※
- ・明和町社会福祉協議会※
- ・玉城町社会福祉協議会※
- ・亀山市社会福祉協議会※
- ・伊勢市社会福祉協議会
- ・四日市市社会福祉協議会
- ・名張市社会福祉協議会
- ・鳥羽市社会福祉協議会※
- ・多気町社会福祉協議会※
- ・大台町社会福祉協議会※
- ・いなべ市社会福祉協議会※

※ 2021年度締結

コロナ禍を通して再確認した コープみえの役割 これからのコープみえ像

鈴木稔彦理事長、鈴木克彦専務理事、村田正樹常務理事による座談会
(部内報 新春座談会より)

新型コロナウイルス感染症は、組合員のくらしや考え方に大きな影響を与えました。外出を控え、人混みを避ける中で宅配の需要が高まりました。一方で、対面での会話や交流の場を持つことがより難しくなっています。私たちは今、何をなすべきなのか、常勤理事のみなさんに語っていただきました。



組合員と一緒に
日常の中で取り組むSDGsに！

コロナ禍で生協の役割が明確に！

お互いに認め合える姿勢を大切に！

鈴木理事長 (以下鈴木(稔))

利用の伸長は、単にコロナウイルス感染症という外的要因だけでなく、組合員活動やコープ商品を通じ、生協の役割への信頼がひろがり、「生協だったら何とかしてくれるだろう」という想いがひろがっていたからこそだと考えます。

鈴木専務理事 (以下鈴木(克))

対面のコミュニケーションはこれまで以上に取りづらくなりましたが、相手に関心を持ち、ちょっとした配慮、気遣いができることで信頼関係は築いていけると感じます。生協は「人と人との関係性を強められる」ことが強みです。目の前にいる「組合員一人ひとりにとってどうか」を徹底的に考えることで、組合員との信頼関係を築いていくことが大切です。

村田常務理事 (以下村田)

コロナ禍が始まった頃、現場で大変な思いをしている担当者から、「組合員からのありがとうの言葉に今まで以上に仕事の意味を感じた」との声を聞きました。感染するかもしれないという不安に加え、物量も増加し欠品のお叱りもある中で、すごいことだと思います。生協が本来果たすべき役割が非常事態の中で明らかになり、現場で担当者のみなさんが実践していることを感じました。

鈴木(稔)

組合員は、自分たちのくらしをより良くしたいと思っています。協同組合と会社組織の違いは、効率以上に一人ひとりの想いを大切にすること。要するに民主主義だということです。仕事の効率や一定のルールも大切ですが、それに困る人が出てきたら、どう解決しようかと一緒に考えるのが生協です。自分たちと違う考え方に対し、頭から否定する風潮が強まっていますが、認め合うことで互いの気持ちが通じ、どうしたら解決していけるか考えるという姿勢をもっとすすめていかないといけないですね。

村田

現場で「組合員にとってどうか」を突き詰めるというのは、素晴らしいことですがとても難しいと感じています。いい事例の積み重ねが事業課題を達成していくということは分かっていますが、量的な課題が目前にあるなかで、本質が見えないようなすすめ方をしていることがあると感じます。経営的な事実を見ながら、すべての人の声をくみ上げていくことを考え続けられる職員を増やしていくことが、コープみえにとって必要だと感じます。

鈴木(克)

2022年はSDGsへの取り組みがますます大切になります。SDGsはコープみえがこれまで取り組んできた活動そのものです。職員側だけで考えてしまいがちですが、生協のオーナーは組合員です。組合員一人ひとりが自分事として考え、主体的に関われるようにしていくことが大切です。

鈴木(稔)

SDGsはみんなが困っていることが形になりました。生協で働く職員の仕事は、組合員の声を聴き、よりよいくらしを実現していくことです。日々の活動の中に、「今の活動は基本方針やSDGsの目標のここのなんだ」と、自分たちのやっていることがどういう風に未来につながっていくのかを、もっと感じられるようにしていきたいですね。



左 鈴木稔彦 理事長、中 村田正樹 常務理事、右 鈴木克彦 専務理事



紺綬褒章の受章

コープみえは2020年10月、新型コロナウイルス感染症への対応に対し、医療従事者の方々や様々な事情を抱え新型コロナウイルス感染症への大きな不安にさいなまれている方々の環境改善のため、「新型コロナ克服みえ支え“愛”募金」に1,000万円を寄付しました。そのことを受けて、12月22日に三重県庁で一見知事より紺綬褒章を受け取りました。



■紺綬褒章は、国の褒章制度のひとつで、公益のために一定額以上を寄付した個人または団体に授与されるものです。

「三重県SDGs推進パートナー」に登録されました

コープみえでは、三重県が募集を行ってきた「三重県SDGs推進パートナー制度」に登録申請を行い、推進パートナーに登録されました。これまでもSDGsの取り組みを推進してきましたが、引き続き地域のみなさんとともに積極的な取り組みをすすめていきます。



■三重県内における企業や団体等のSDGsに向けた取り組みが見える化し、県が後押しすることで、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを広げていくことを目的とした制度です。

持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方の見直し活動



地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーの利用・普及活動



メーカー、生産者とのパートナーシップ 地産地消

<産地交流会の開催>

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、産地や生産者との交流機会が減少しています。このような状況だからこそ、今までと変わらずお互いに良好な関係を保つため、感染対策を十分に行った上で交流会を開催しました。生産者の言葉や当日の様子を動画やホームページに掲載し、組合員に知らせました。



●多気郡農協産地交流会

11月に現地にて、「松阪商品活動をすすめる会」の組合員、理事らが現地を訪れ、栽培されている「三重の次郎柿」や「多気みかん」の意見交換を行いました。



●紀ノ川農協や JA 青森のオンライン産地交流会

オンライン産地交流会を開催し、産地紹介や生産者のみなさんの想いやこだわり、生産をするうえでの苦労話などをお聞きし、交流を深めました。



エシカル消費

<コープサステナブルシリーズ>

「誰かの笑顔につながるお買い物」をキャッチフレーズに、環境と社会に配慮したエシカル消費の取り組みをすすめています。特に、主原料にサステナブル（持続可能）な原料を使用した商品を「コープサステナブルシリーズ」としてお知らせし、普及活動を行っています。



<コアノンスマイルスクールプロジェクト>

コアノンシリーズ1パック購入につき1円が、ユニセフを通じてアフリカのアンゴラ共和国に寄付され、子どもたちが楽しく学べる環境づくりに使われています。キャンペーン第11期（2020年11月1日～2021年10月31日）の寄付額は全国の生協全体で12,399,480円でした。



<うなぎ資源対策協力金の取り組み>

国産うなぎを継続的に利用できるように、鹿児島県うなぎ資源増殖対策協議会と地元産（愛知、三河一色）の愛知県養鰻漁業者協会へ協力金の取り組みを行っています。集まった協力金は、うなぎ放流活動や養殖保護等に活用されます。

2021年度協力金総額（東海3生協） 390,885円



環境保全活動

<白塚海岸の清掃活動>

白塚海岸の清掃活動に職員が参加しました。海岸には流木や食品トレー、プラスチック片が散在しており、マイクロプラスチックなどの環境汚染や生態系への影響の深刻さを実感しました。コープみえの商品案内では脱プラ・減プラの表示を行い、プラスチックの使用量削減に取り組んでいます。



<環境活動寄付金を7団体に贈呈>

持続可能な循環型社会づくりをめざし、県内で環境活動に取り組んでいる団体への寄付を行っています。寄付先選考委員会設置のもと、団体の活動内容や申請された使い道などを選考し、7団体の寄付先が決定。2月に「環境活動寄付金贈呈式・環境活動団体交流会」をリモートで開催し、寄付金が贈られました。



環境活動寄付金贈呈団体

団体名	寄付額
いなべ自然学校	100,000円
いなべの里山を守る会	100,000円
ウミガメネットワーク三重	100,000円
シェアハピ農園	20,000円
学校法人 藤学園 藤認定こども園	100,000円
名張市立薦原小学校	96,000円
松阪市立中原幼稚園	99,530円



<コープみえの森 保全活動>

津市美杉町上多気にあるコープみえの森で、森を育てるために植樹した木々の下草刈りを行いました。森と海の環境を守るための保全活動を定期的に行っており、コロナ禍のため今回は役職員を中心に作業を行いました。



<エコ川柳>

エコ川柳は、家庭や身近な場所で環境保全活動をすすめるエコファミリーメンバーの組合員から寄せられました。

- ・テレワーク 車控えて エコになる
- ・ストーブで おかずコトコト 暖房も
- ・値上がりで 電気ガス代 チェック密
- ・湯たんぼの 残り湯使って 洗い物
- ・コロナ禍で エコ生活も 身についた
- ・野菜クズ スープのダシへ エコ調理
- ・冬の夜 湯たんぼがわりの 愛犬よ
- ・窓際に ダンボール立て 結露よけ





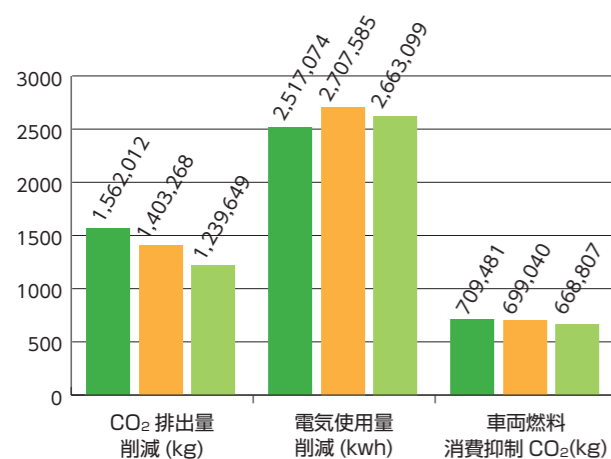
地球温暖化防止活動

<環境活動パフォーマンス報告>

コープみえは、環境マネジメントシステムの国際規格 ISO14001 規格にもとづき環境負荷低減の取り組みを行っています。

また、組合員や地域・諸団体とともに、生物多様性保全、地球温暖化防止に向けた環境活動をすすめています。日常的な省エネ活動や、夏場のエコスタイル、室温の管理、ノー残業デーやライトダウンの実施に取り組みました。

CO₂ 排出量削減に向けた環境負荷低減の取り組み



■ 2019年度実績 ■ 2020年度実績 ■ 2021年度実績
※電気は再生可能エネルギーの比率の高いものを使っています。

<リサイクルを促進するエコセンター>

エコセンターは、2016年に稼働し、コープぎふ・コープあいち・コープみえと東海コープで、循環型環境社会の実現への貢献をめざしリサイクルを推進しています。

支所・センターで回収している使用済みの商品案内やたまごパックを集積・圧縮して、環境資源として出荷しています。



	2018年	2019年	2020年	2021年
商品案内書の回収	2,228t	2,147t	2,014t	2,029t
内袋の回収	43t	34t	37t	35t



<アルミ付き紙パックの回収・整理・リサイクルの活動を続けて14年！>

伊賀センターでは「環境（委）グループ」の組合員が、定期的に配送センターに集まって、宅配などで回収されてきたアルミ付き紙パックを仕分け・整理し、古紙回収業者に送り出す作業をしています。この取り組みが始まって14年。この間に送り出したアルミ付き紙パックの累計は約1,530kgになりました。



<ユニセフ募金>

コープみえの組合員、県内の諸団体のみなさんとともに手を携えてユニセフ募金に取り組みました。また、オンライン募金にも取り組み、世界の子どもたちに笑顔を届けています。ウクライナへの緊急募金活動にも取り組みました。年間を通してOCR注文用紙、e-フレンズで募金できるようになりました。



©UNICEF/UNO149107/Brown

<ハンガーフリーワールド>

2021年度「書き損じハガキ回収キャンペーン」では、コープみえの組合員から年賀状の書き損じや未使用ハガキ、その他の回収品を換金。バングラデシュやウガンダなどの住民が自立できるように支援活動をすすめました。

2021年度募金および換金総額

ユニセフ募金 (2022年3月20日現在) 総額	1,387,337円
(内訳)	
・人道危機緊急募金 ~アフガニスタン~	309,241円
・ハンドインハンド	40,000円
・一般募金・お年玉募金	639,830円
・トンガ自然災害緊急募金	398,266円
ハンガーフリーワールド換金額	5,036,494円

核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動の推進



<平和講演会「ちっちゃいこえ」に耳をすまそう！>

詩人のアーサー・ビナード氏をお迎えしてパブリックビューイングとオンラインで講演会が開催されました。

参加者の感想

・アーサー・ビナードさんの関心を持たないと頭に入らないという言葉聞いて、自分の言葉で話さないと理解してもらえないと思いました。「語り継がないはずがない」という言葉を胸に、これからも平和活動に参加していきたいです。



<ウクライナへの軍事進攻の即時中止を求める要請書を提出>

ロシア連邦の軍事進攻を即時中止し、国際法に基づく平和的解決を求める要請文をプーチン大統領宛てに提出しました。

<核兵器禁止条約への署名・批准を求める署名を提出>

7月から10月の期間に署名活動に取り組みました。寄せられた署名は日本原水爆被害者団体協議会を通して、日本政府に提出されました。

署名数 14,571筆

地域の見守り活動

<各地の市町と「高齢者等の見守りと支援に関する協定」を締結>

2021年度は玉城町と紀北町、川越町の3町との協定を締結し、のべ24市町にひろがりました。

商品のお届け時など、コープみえが訪問先で何らかの異常や異変を察知した場合に連絡を行い、関係機関と連携し必要な対応を行います。

また、「伊賀市との地域共生社会の実現に関する協定」が県内では初めて締結されました。



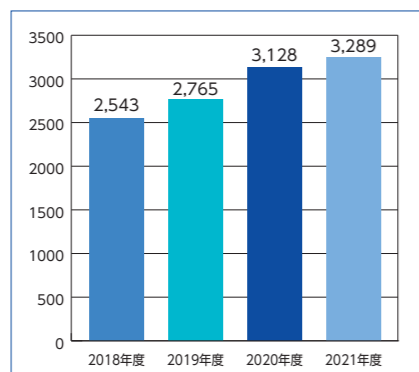
協定締結市町一覧

- ・四日市市 ・度会町 ・津市 ・東員町 ・名張市 ・明和町 ・松阪市 ・伊勢市 ・桑名市 ・鈴鹿市
- ・亀山市 ・尾鷲市 ・多気町 ・熊野市 ・大台町 ・木曽岬町 ・朝日町 ・南伊勢町 ・紀宝町 ・御浜町
- ・玉城町(2021年度締結) ・紀北町(2021年度締結) ・川越町(2021年度締結) ・伊賀市(2021年度締結) 地域共生社会

<宅配や夕食宅配での見守り活動>

コープみえの宅配や夕食宅配のお届けが定曜日、同じ職員が対応することを活かした見守り活動を実施しています。

夕食宅配では、お弁当が未開封の場合に事前にご登録いただいた連絡先に毎月65件ほど連絡しています。



夕食宅配食数の推移 (1日あたり食数)

<コープみえ職員が認知症サポーター養成講座を受講>

地域の見守り活動へ活かすために、伊勢センターの職員が「認知症サポーター養成」講座を受講しました。認知症についての基礎的な知識を学習後、実際にどのような対応を心掛けるべきなのかを学びました。



<見守り事例紹介>

夕食宅配の見守り活動で 組合員の命が救われました

夕食宅配 配達担当者

森真希



夕食宅配の配達中に、自宅内の廊下で倒れている組合員を発見しました。意識はあったものの顔面蒼白で顔は腫れており、明らかにいつもと違う様子でした。その場で救急車を呼び、救急車到着後に配達を再開しました。

組合員は入院されることになり、緊急連絡先のご家族に事情を報告すると、お礼のご連絡をいただきました。お役に立てて良かったです。

<くらしの相談窓口>

開設から4年が経過し、主に高齢者やそのご家族から福祉・介護、医療制度など行政機関での手続き、土地や家屋の相続など法律相談に関する相談を受けています。

累計相談件数 994件

組合員活動

<グループ活動「居場所づくり」>

組合員のグループ活動に新たに「居場所づくり」の取り組みが2021年度から導入され、地域のつながりが希薄化する中、誰もが安心してくらすように活動がスタートしました。

●ウィンド・ヴィーナス

明和町で活動する「ウィンド・ヴィーナス」では、「カフェ寺」を開いたり、放課後の子どもたちの居場所づくり「こどもひろば」を開催しています。



●瑠璃光会 活活サロン

紀北町で活動する「瑠璃光会 活活サロン」は、脳トレや体操などリクリエーションを盛り込んだサロンを運営しています。



<子育てひろば「ふうせん」クリスマス企画を開催>

子育てひろばがお休みのため、「親子でお出かけしてもらえたい」ということで、感染症対策を実施した上でクリスマス企画を開催しました。



参加者の感想

・下の子は出かける機会が少なくなっていたので、今回参加できて嬉しかったです。

<LPAの会>

LPAの会は、「家計の見直し活動」をすすめる専門家として、講演会や学習会、個人保障相談の企画・運営および講師・相談役として活動しています。

2021年度は、くらしの見直し講演会「新常識の家計管理とお金の使い方」などが開催されました。

安全運転の取り組み

「安全を第一に考える人づくり」をめざし、安全運転トレーナー会議を開催して安全運転教育をすすめています。また、生協車両運転認定制度に基づき、職員の状態にあわせた訓練指導を実施しています。



内定者運転体験の様子

事故発生推移表

年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
発生件数	95件	84件	89件	63件	53件

安全運転プラチナ賞の受賞

自動車安全運転センターによる運転記録証明書の分析や安全運転管理の推進状況をもとに審査された結果、コープみえが最高位であるプラチナ賞を受賞し、感謝状を贈呈されました。



公私にわたる毎日の安全運転の積み重ねが評価され、今回の受賞になりました。生協職員として賞に恥じない安全行動や地域への配慮を今後も心掛け、安全運転に励みます。

安全推進課 船木智一



災害支援 災害に備えて、自治体との災害協定や事前訓練に取り組んでいます。

<食料等輸送合同訓練を実施>

三重県防災対策部と県内各地域の消防本部、三重県トラック協会、(株)大信運送、三重県生協連、コープみえによる関係機関食料等輸送合同訓練が11月に実施されました。松阪センター敷地内の防災倉庫には、緊急消防援助隊三重県大隊等の応援出動にかかる食料等を300人分×3日分を備蓄しており、積み込み等の訓練を行いました。



<緊急時に出勤する消防隊への 食品供給協定の締結>

2021年3月に三重県と三重県生活協同組合連合会が「緊急消防援助隊三重県大隊等の応援出動にかかる食料等の供給に関する協定」を締結しました。



災害時における物資供給 及び物資配送に関する協定締結市町一覧

- ・桑名市 ・津市 ・鈴鹿市 ・松阪市 ・尾鷲市
- ・名張市 ・伊賀市 ・いなべ市 ・伊勢市
- ・度会町 ・志摩市 ・朝日町 ・川越町

東日本大震災支援活動 東日本大震災の発災時から被災者に寄り添い、息の長い支援活動をすすめてきました。

<「コープふくしま&みえ つながり交流会 2021」を開催>

震災から10年が経過し、震災の記憶や教訓の風化が課題となっています。新型コロナウイルス感染拡大の影響から、これまで行ってきた福島県での現地交流が困難となったこともあり、オンラインでの交流会を開催しました。



<つながりカレンダーの取り組み>

いつも福島のみなさんとつながっている気持ちを伝えたいと、コープみえでは組合員のみなさんにイラストやメッセージを募集し、カレンダーを作成して、毎年コープふくしまにお届しています。



福島からのお便り

- ・福島に心を寄せていただいていることを知ることが出来て、あらためて繋がりの大切さを実感しました。

<支援募金・応援募金>

東日本大震災復興支援募金 (2021年3月21日～ 2022年3月20日現在)	1,230,230円
2021年8月 豪雨災害支援募金	1,911,035円

<夜の森さくらの開花 フォトコンテスト特賞>

福島県富岡町で桜の名所と知られる夜の森さくらがー昨年、松阪センターに植樹されましたが、震災からちょうど10年となる3月11日に新芽が開花しました。それを見た職員がフォトコンテストに応募し、特賞を受賞しました。



福祉・助け合いの活動

<第4回 福祉活動寄付金贈呈式&交流会が開催>

福祉活動寄付金は、福祉活動をすすめる団体や障がい者施設、福祉施設などを応援する取り組みで、今年度は5団体に総額490,359円の寄付金を贈呈しました。当日はオンラインでの贈呈証授与式のあと、福祉団体のみなさんがコメント動画でお互いの活動を報告しながら交流しました。



NPO 法人体験ひろば☆子どもスペース四日市のみなさん

2021年度福祉活動寄付金贈呈団体

- ・特定非営利活動法人 shining (鈴鹿市)
- ・NPO 法人ユニバーサル就労センター (四日市市)
- ・社会福祉法人 伊勢亀鈴会南勢就労支援センター (度会郡玉城町)
- ・子どもの発達支援事業所 えがお (伊勢市)
- ・NPO 法人体験ひろば☆子どもスペース四日市 (四日市市)

●くらしたすけあいの会

困った時はおたがいさまの精神で、組合員が行う有償の福祉活動です。2021年はコロナ禍のなかで一時活動を休止した時期もありましたが、高齢の方や障がいのある方、産前産後や子育て家庭、病気やケガでお困りの方などへ掃除、洗濯、買い物、食事づくり、話し相手、ご家庭での託児などを行いました。



食の安全

<商品検査センターの学習会(鈴鹿、松阪)>

組合員が食の安全について考える機会をつくりたいと、鈴鹿センターと松阪センターへ東海コープ商品検査センターの松本センター長を招き学習会を開催しました。手洗いや農薬検出などの体験もあって親子で学ぶことができました。

参加者の感想

- ・手洗いチェックなど子どもと一緒に学べる企画がとても良かったです。



<検査センターの取り組み>

東海コープ商品検査センターでは、組合員からの出資金をもとに検査体制と検査設備、検査項目の充実を図っています。生協で企画している商品の微生物や残留農薬、食品添加物、放射性物質などの検査を実施し、安全品質を確保する取り組みをすすめています。



2021年度の検査(2021年3月21日～2022年3月20日報告)

	実施	適合率
微生物検査	9,898件	95%
残留農薬検査	434件	100%
食品添加物	122件	100%

・放射性物質検査は87件実施し、検出限界値を超える検出はありませんでした。

ジェンダー平等(男女平等)と 多様な人々が共生できる社会づくりの推進



誰もが働きやすい環境づくり

<職員が主体的に参画するイキイキ職場 実行委員会>

職員が働きがいを実感でき、ワークライフバランスが実現できるイキイキした職場づくりをめざして、職員が主体的に参画する実行委員会です。各職場からメンバーを選出し、具体的な取り組みをすすめています。



<2021年度ダイバーシティ推進課が新設>

職員一人ひとりが主体者となり、働きやすい職場づくりをすすめるよう設置されました。
(女性活躍推進、次世代育成支援、男女共同参画などの業務)
○ハラスメント撲滅への施策や内部相談窓口
○障がい者雇用や定着支援
○母性健康管理／育児・介護による休暇、時短勤務等の申請
○イキイキ職場実行委員会の運営等

育児休業取得しました！

安全推進課 船木智一

長男が誕生したので育児休暇を取得しました。育休中は長男の育児もですが、長女、次女の保育園の送り迎え等もでき、家族全員有意義な時間を過ごすことができました。



育児休業取得率

年度／性別	男性	女性
2019年度	80%	100%
2020年度	100%	100%
2021年度	100%	100%

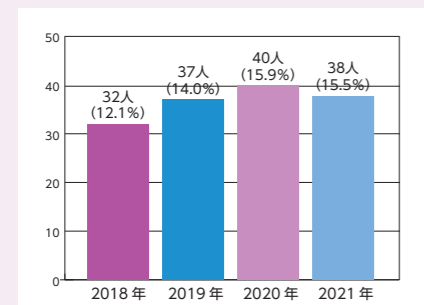
<ハラスメント相談窓口カードの配布>

ハラスメントを絶対に許さない職場をめざそうと、職員自作のイラストが入ったハラスメント相談窓口案内カードを全職員に配布しました。

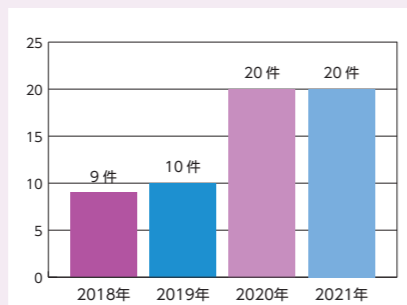


女性職員比率、労災事故発生件数、障がい者雇用率推移グラフ

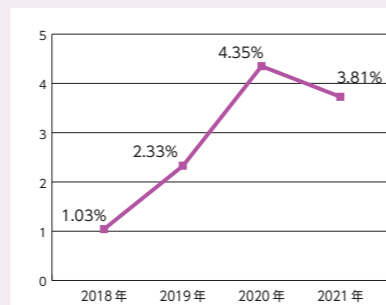
女性職員比率の推移(ゼネラル・エリア職員)



労災事故発生件数の推移



障がい者雇用率の推移



※ 6月提出「障害者雇用状況報告書」より

コープみえの内部統制システム・第三者評価

内部統制システム

コープみえの機関運営と組織、内部統制・マネジメントの取り組み
コープみえは、生協法をはじめ関係法令及び定款等に則った機関運営や業務執行の強化に努めています。

機関運営と組織

最高決定機関である総代会での決定に基づき理事会、常務理事会で日常執行がすすめられています。理事会の執行を監事会が監査し、決算会計については、監査法人による外部監査を実施しています。

内部統制活動

2021年度内部統制システム推進の基本方針に基づき、内部統制活動をすすめてきました。

基本方針	2021年度の主な取り組み
1. 理事及び職員の職務の執行が、法令および定款などに適合することを確保するための体制整備をすすめます。	・各部署の事業や活動に関する法令等について登録をし、内部統制推進委員会で日常的に法令遵守状況について監視、点検をすすめました。 ・職員に対するコンプライアンス意識の醸成と定着をはかるために、職員ハンドブックを活用した教育、部内報等での情報提供を継続してすすめました。 ・職員のコンプライアンス意識調査、ハラスメント意識調査を年1回実施し、部署毎に調査結果について共有化する場を設けてきました。 ・内部の「相談・通報窓口」及び外部のハラスメントの相談窓口を設置し、職員への案内、周知を継続的にすすめました。
2. 理事及び職員の職務執行に関する情報の保存及び管理に関する体制整備をすすめます。	・「情報開示規則」に基づき、生協の事業及び財務の状況に関する情報の開示について、開示に係る基準、範囲及び手続きに基づき、その適切な運用を行ってきました。 ・「文書管理規程」に基づき、理事の職務の執行に関する情報について、管理対象とする文書、保存年限、保存形態、主管部署及び保存場所等を明確にして保存してきました。
3. 事業の遂行に大きな障害や損失の要因となる「リスク」を管理し、損失予防や緊急事態など危機管理体制を整備します。	・各部署で重要リスクについての評価・特定を行い、対応計画に基づき、リスク軽減に取り組みました。 ・責任者を対象にリスクマネジメント研修会を実施しました。 ・月次のリスク、事故の発生、ヒヤリハットの事例報告を内部統制推進委員会に集約し、共有化をはかりました。 ・「危機管理規程」、「災害に関する規程」に基づく整備やMC A無線、緊急時の連絡網の訓練等を実施してきました。
4. 理事及び職員の職務の執行が効率的に行われる体制を整備します。	・理事会は「理事会規則」に基づき、理事の職務の執行が効率的に行われるよう業務執行・運営に関する重要事項を審議し決定してきました。 ・常務理事会は「常務理事会規則」に基づき、理事会に提案する議案検討や日常業務執行の効率的な運営に努めてきました。
5. コープみえの関連する会社等における業務が適正に行われる体制を整備します。	・「関係会社管理規程」に基づき、子会社に対する重要な方針等の理事会での協議決定や月次状況報告を行ってきました。また、役員派遣や株主総会への参加をすすめてきました。 ・子会社のスマイルサービスみえの特別監査を実施しました。
6. 監事監査及び監事業務が実効的に行われることを確保する体制と理事及び職員が監事への報告をするための体制を整備します。	・常勤監事を選任し、専任の監事スタッフを配置し、監査業務が実効的に行われる環境を確保しています。 ・監事会と代表理事との定期的な会合を実施しました。
7. 内部監査の実施と監査体制を整備します。	内部監査の監査方法と体制の見直しを行い、監査の精度と有効性の向上をめざしました。内部統制とMSの内部監査を統合し、各部署から推薦された監査員が全部署を対象に監査を実施しました。

<サステナビリティレポート第三者意見>

朝日新聞社が2021年12月に実施した第8回SDGs認知度調査で認知率は76.3%に達しています。SDGsへの関心が高まる中、コープみえの社会課題を解決する取り組み、新型コロナウイルスの感染拡大など社会や環境の変化への対応がこのレポートからわかります。
具体的には、高齢化や人口減少が進む地域では独居老人・世帯が増え、地域での見守りが必要です。そのような地域が抱える課題と本業の宅配業務を組み合わせた活動が、地域の見守り活動(P13)だと言えます。またSDGsの取り組みでは組織への浸透も重要なポイントです。誰もが働きやすい環境づくり(P17)はSDGsの理解促進と組織への浸透を組み合わせた活動です。職員からのSDGsへの想い(P4)は、日頃から職員の方が意識的に行動していることが伝わりました。「特集01(P5、P6)」はコロナ禍における社会ニーズへの

対応です。生産者の支援は持続可能な生産と消費に必要な関係性づくりです。組合員の主体的な取り組みはコープみえの独自性だと言えます。また生活困窮者支援などを行う社会福祉協議会との連携は、早くからSDGsに着手してきたコープみえらしい活動であり評価できます。

連携はSDGs17番目のゴール「パートナーシップで目標を達成しよう」にもあるように重要な視点です。連携は活動の幅の広がりをつくり持続可能性への次のステップと言えるでしょう。協定締結はその証であり今後の活動の広がり期待が高まります。今以上に今後の活動も記されたレポートとなれば、共に応援し歩む気持ちで育まれると感じました。

CSR検定合格者・第三者意見検討委員会/事務局:NPO法人Mブリッジ(石丸)